

〒758-8555 山口県萩市大字江向 510
TEL : 0838-21-7765 FAX : 0838-25-7767
e-mail : hg-geo@city.hagi.lg.jp
HP : <http://www.city.hagi.lg.jp/site/hg-geo/>

発行： 萩ジオパーク構想推進協議会
事務局：萩市ジオパーク推進課

平成30年度 日本ジオパーク認定をめざして

去る5月21日(日)に、千葉市で開催された第30回日本ジオパーク委員会の審議の結果、今年度、日本ジオパーク認定申請を行った4地域のうち、「国引き」(島根県)と「十勝岳」(北海道)の2地域は現地審査を行うことになりました。しかし、「土佐清水」(高知県)と「那須烏山」(栃木県)の2地域は見送りとなりました。現地審査に進むことなく見送りとされたのは、日本ジオパーク認定では初めてのことであり、認定のハードルはこれまでよりも明らかに高くなっています。

日本ジオパーク認定そのものは、ジオパーク活動に取り組む目的ではありませんが、認定は活動推進の弾みとなることが期待されることから、平成30年度の日本ジオパーク認定を目指してまいりたいと考えています。

昨年の申請において指摘のあった課題は、決して軽いものではありません。しかし、ジオパーク活動によって地域が活性化し潤う仕組みを考え、皆様と一緒にジオパーク活動を推進し、しっかりと課題解決を図ってまいります。ご支援・ご協力の程よろしくお願ひいたします。

(報告：事務局長 福島康行)



〔プレゼンテーション会場〕

「突撃!ポート」 はじめての見島

5月3日(水・祝日)、島びらきまつりで見島を訪れました。本村の会場では特産品の販売、餅まきが行われ多くの人で賑わっていました。うにめし、ぐべ汁で腹ごしらえをして、一人、島内散策へ。

本村からジーコンボ古墳群・見島牛の放牧場・宇津港・観音堂と約4km、2時間歩いての散策でした。観音堂から見る大海原の眺めはとても素晴らしく、疲れを癒やしてくれるものでした。また、この時期はバードウォッチングで見島を訪れる人も多く、1種類でも多くの野鳥を観察しようと双眼鏡をのぞいていました。

お土産に“やはで”という魚を買い、素揚げにしてみました。10cm程度の小魚ですが、しっかりウロコがあり、少し手間がかかりましたが、「漁師さんがこっそり食べていた磯の珍味」というだけあって、とても美味しかったです。

今回は『食べる』『見る』の散策でしたが、次回は観音堂から見る地層、足元のきらきらした石のことなど、もっと観察し、学べたらと思いました。

(報告：事務局員 埴山桂子)

〔右上：鳥居越しに見る海原〕

〔右下：磯の珍味 “やはで”〕



* 今後エリアのとおき情報を掲載します。みなさまからの情報(写真・コメント)をお待ちしています。

〈報告〉 JpGU2017 パブリックセッション “しくじりから学ぼう” および各種行事に参加して

5月20日（土）、千葉市幕張メッセで開催された地球惑星科学連合大会(JpGU2017)のパブリックセッション（一般住民も気軽に聴講できる学会の講演）に参加しました。今回の発表は「日本のジオパーク～しくじりから見えてくるジオパークの理想像」という題で、6ジオパークの関係者の口頭発表と36件のポスター発表があり、200名を超える方が聴講しました。口頭発表では、新規認定審査で見送り、あるいは条件付再認定後に課題を克服したジオパークとして、恐竜渓谷ふくい勝山、Mine 秋吉台、下北、伊豆大島の4地域が、活動の停滞に直面しその解決策を具体的に語るジオパークとして、島原半島、山陰海岸の2地域が登壇しました。講演の様子は、後日、日本ジオパークネットワークの公式サイトで公開される予定です。

講演で紹介される「しくじり」がどれも萩に当てはまり、特にジオパークを使って何をしたいのか、行政、市民、研究者が同じ目標に向かって進んでいるのか、またその仕組みができていないのか、改めて考えさせられました。行政職員がジオパークの意義について理解し、どう取り組んでいくのか、全職員を対象とした研修会を実施したことなど、萩でも実施すべきだと思いました。

翌21日（日）午前は、日本ジオパーク委員会の新規認定審査プレゼンテーションが行われました。4つの地域が、地域で活動している住民と一緒にプレゼンをしました。昨年と比べ、質問も厳しく、ジオパークとしての活動が十分なされており、何のためにジオパーク活動を行うのか、が共通理解されているかどうかが問われていました。また、午後からのJGN運営会議に参加し、JGNとして諸活動をどう進め、共有し、ボトムアップで進められているジオパーク活動を実感することができました。

22日（月）は、第10回JGN全国研修会が開催され、現在文部科学省やユネスコが推進しているESD（持続可能な開発のための教育）とジオパークの3つの柱の1つである「教育」との関係について、ワークショップを重ねました。どちらもゴールは「持続可能な地域づくり」であり、今後教育現場で取り組むこととなるESDにジオパーク活動を取り入れてもらえるように、この1年JGNとして研修を行っていくとのことでした。

全国から参加した専門員ほか事務局の方々とも交流ができ、連携を深めることができた3日間でした。

（報告：事務局員 伊藤靖子）

「吉田松陰も登頂した筑波山」（茨城県筑波山地域ジオパーク）

筑波山は、筑波山地域ジオパークのジオサイトの1つです。地下でマグマがゆっくりと冷えて固まった斑れい岩と花こう岩からできています。茨城県を象徴する山で、多くの校歌に歌われており、日本百名山にもなっています。

松陰は、満21歳の時、筑波山に登っています。松陰は嘉永4年（1851）12月14日、江戸を出発して東北旅行に出かけます。それから3日後の12月17日（西暦1852年1月8日）、筑波山に登頂しました。松陰の日記には、筑波山の2つの峰をきわめたいと記されています。1つは女体山（によたいさん）で877m、もう1つは男体山（なんたいさん）で871m。この日は快晴で関東平野が一望でき、遠く富士山も見え、日光や那須方面、利根川や那珂川も手に取るようだった、とあります。

今回の研修の合間に、私が2峰に登った5月22日（月）は晴れてはいましたが霞んでおり、残念ながら富士山は見えませんでした。筑波山地域ジオパークの専門員さんは、今後はジオガイドに「松陰登山の話もするようにします」とのことでした。

（報告：ジオパーク支援員 樋口尚樹）



〔会場でのポスター発表〕



〔JGN全国研修会〕



〔松陰も立った女体山頂からの眺望〕

ジオ・カメラ散歩

須佐湾ジオクルージング
今年も須佐湾の魅力を発信します！

水上から見てみよう・・・

須佐湾遊覧船（須佐湾ジオクルージング）の今年の運航が、4月29日（土）からスタートしました。ゴールデンウィーク期間中は、好天に恵まれ、遠近各地よりたくさんのお客様にご乗船いただきました。須佐湾遊覧船の魅力は、約1億年前（恐竜がいた頃）の火山活動によってできた「屏風岩」や日本地質100選にもなっている「須佐ホルンフェルス」など、火山と海が作り出した壮大な景観はもちろんですが、何と言っても現役漁師が操縦する漁船で運航していることです。そして、地域のボランティアガイドが1隻ずつ乗船し、お客様との掛け合いの中でその魅力を発信しているところにあります。

今年も10月末まで、大人5名様以上の予約で運航いたします。夏休み期間中の土・日とお盆には1日8便の定時運航を行います。ご予約・お問い合わせは、須佐おもてなし協会・つわぶきの館（電話：08387-6-2266）まで。



〔漁船に乗って出航〕



〔海上から見る畳岩・千畳敷〕

須佐湾遊覧船に加えて、萩八景遊覧船、萩・長門峡観光遊覧船があります。

萩八景遊覧船では、指月公園の東側、指月橋をスタートし、水の都「萩」の景観を水上から楽しめます。天気の良い日は、白砂青松の菊ヶ浜を海から眺めることもできます。11月30日（木）まで、午前9時から午後5時まで（受付は4時まで、11月は3時まで）、予約不要で出航します。

萩・長門峡観光遊覧船は、阿武川ダム湖の船着き場から出発。「佐々連（さざれ）コース」と「重塀岩コース」の2つのコースで、長門峡の景色を楽しむことができます。春・夏・秋に各1ヵ月間運航します。佐々連コースは9時から1時間ごとに7回出航し、重塀岩コースは午前10時、正午、午後2時の3回出航します。



〔桜の時期の萩八景遊覧船〕



〔重塀岩に接近〕

いずれも天候により運休の場合があるので、事前にお問い合わせください。
萩八景遊覧船：0838-21-7708、 萩・長門峡観光遊覧船：090-4104-4924

ジオカフェ ジオは、食べて楽しむ、味わうことも…

先日のジオカフェでの話題は、「ジオを楽しむ方法には、ジオサイトの現地に行って五感を使って楽しむこと」の大切さが話題になりました。参加者の一人が、萩の夏みかんの皮を使った砂糖漬けを、蒸しパンにトッピングしたスイーツを持参されました。萩の地ならではの食材、それはまさに「大地に育まれためぐみ、そのものです」。

萩ジオパークの大地から産み出される食材はたくさんあります。既に、全国の市場に出回るほどのブランドものもあります。そして今、地域の皆さんの日頃の食卓にのる物もあります。地域によっては、新しく工夫・開発しておられる地域料理もあります。イベント会場などで目にする、そして口にすることができるものは、ことのほか美味しさを感じるものです。私たちの身近にある大地の恵み。もう一度、味わい直してみたいものです。そうした中から、新たなアイデアや工夫が出てくるかもしれません。



【大地のめぐみをトッピングした蒸しパン】

ジオパーク・ワンポイント講座① 「ジオパーク」の本当の意味？！

今の時代、わからないことはインターネットですぐに調べられます。「ジオパーク」を調べた経験がある方もいるのではないのでしょうか。「ジオ (Geo-)」は「地球」や「大地」を意味し、「パーク」は「公園」なので、「ジオパーク」とは「大地の公園」であり、地球をまるごと学び楽しむ場所です。と説明されています。大地の公園…、訳がわかりませんね。国連の機関であるユネスコは、世界平和と人類の福祉の促進の手段として、ジオパークに取り組んでいます。ジオパークは、地球で生活する私たち人間が、それぞれの土地にあった暮らしを見直し、未来に永く伝えていける方法で発展しよう、という取組です。

私は「ジオパーク」を「大地と共に生きるまち」と訳します。萩の大地には、他とは違う特徴があります。良いところは産業に活かし、注意すべきところは見極めて防災に役立てましょう。この活動は、萩の今後の末永い発展に必要だと思いませんか？ 自分のため、子どもたちのため、孫たちのためにつくる、萩の大地に適した萩らしい町が本当のジオパークなのです。

(ジオパーク専門員：白井孝明)

6月の予定

- 隠岐ユネスコ世界ジオパークフェスタ 6月4日(日) 9:30~16:00
会場：島根県松江市くにびきメッセ 内容：昨年引き続き、隠岐ユネスコ世界ジオパークのイベントに参加し、中・四国の他のジオパークと一緒にPRをします。問合せ：萩ジオパーク構想推進協議会 (電話：0838-21-7765)
- 「龍が通った道」学習会 6月5日(月) 19:00~20:30 会場：弥富公民館 内容：7月30日(日)に開催される「龍が通った道まつり」でガイドができるように、学習会を行います。問合せ：豊ヶ淵交流事業実行委員会事務局 (弥富公民館 電話：08387-8-2044)
- 萩ジオカフェ 6月15日(木) 14:00~15:30 会場：萩・明倫学舎復元教室、18:30~20:00 会場：萩市中央公民館講義室 (萩市民館)、参加費：100円、申込み：萩ジオパーク構想推進協議会 (電話：0838-21-7765)
- 山口県立博物館「地質めぐり(第1回)」 6月18日(日) 13:00~16:00 場所：長門市青海島、参加費：船賃実費(3000円程度)、定員：26名(応募者多数の場合は抽選)、主催：山口県立山口博物館・山口地学会、申込み：山口県立博物館(〒753-0073 山口市春日町8-2)へ往復葉書に住所、氏名、年齢、電話番号を記入し、6月8日(木)必着で郵送。
- 長門峡ジオウォーク 6月24日(土) 10:00~14:00 会場：長門峡自然休養村管理センター(山口市阿東) 内容：専門家とともに長門峡を散策します。定員：20名(先着順) 参加費：700円(昼食代、保険料等) 主催：NPOあとう(あとう観光協会) 申込み：萩市ジオパーク推進課(電話：0838-21-7765)
- 萩ジオパーク構想推進協議会教育・普及部会 6月26日(月) 15:00~16:30 会場：萩・明倫学舎 問合せ：萩ジオパーク構想推進協議会(電話：0838-21-7765)